



JFE

次世代足場
ファステック

Firstech

仮設工業会足場承認取得 承認 第63号

仮設工業会支保工承認取得 承認 第90号

JFE 機材フォーミング 株式会社

ファステックは、安全な上に、 施工性と剛性を両立させた足場です。

安全

- 先行手すり方式
(手すり高さは1m)
- 布材の堅結を目視で点検可能
⇒ 改正安全衛生規則対応機種

- 53mまで単管補強
なしで組立可能
- 型わく支保工への転用可能
システム支保工(48.6タイプ)相当

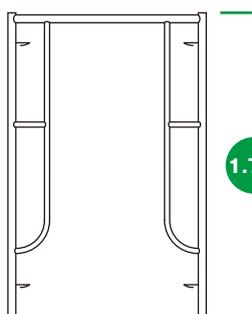
施工性

剛性

- 布材の3ステップ施工
- 先行手すりの自動セット方式

枠組足場から次世代足場へ

枠組足場



1.7m

2層相当の設計

さらに運送時の
効率もUP

約16kg/枚(当社材)

ブレース

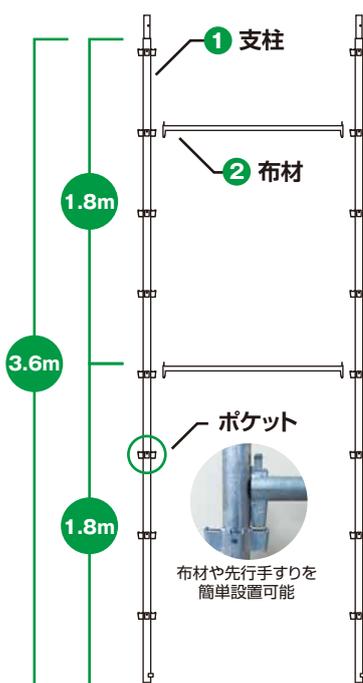


足場板



次世代足場でも、従来の床付布枠は使用可能

次世代足場(ファステック)



1.8m

3.6m

1.8m

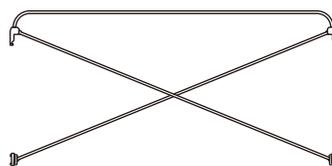
① 支柱

② 布材

ポケット

布材や先行手すりを
簡単設置可能

③ 先行手すり付きブレース



・支柱と布材を個別に。支柱についた
ポケットに布材を取付ける。
→ 置場輸送効率がよい(枠組足場比、
約+40%効率)

・支柱も軽量(2層分で1本)
→ ファステック:11.8kg/本

・階高を1.8mに
→ 支柱長さ3.6m

・支柱を2層分にする事で、下の階から上の階のブレースを設置可能に=先行手すり方式
→ 安全(転落防止に)

安全

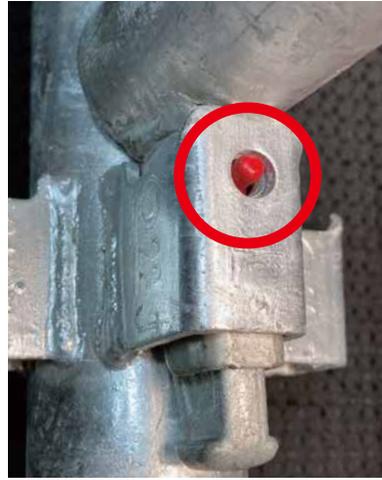
先行手すり方式



1m

手すり高さが長身の方でも安心の1m

布材の緊結を目視で点検可能

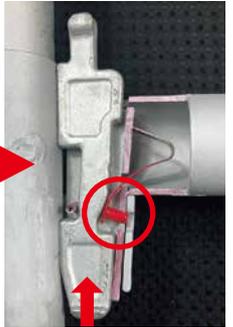


改正安全衛生規則(足場の組立後、発注者も点検が必要に)→ファステックは法改正に対応した機種

〈ロック時〉



〈アンロック時〉



- ・クサビを打ち込むことで、抜け止めピンがでる。下からクサビを打つことで抜け止めピンが引っ込む。
- ・バネはステンレス製
- ・クサビは修理も可能

ファステックは、職人さんの安全を守る足場です。

剛性

53mまで単管補強なしで組立可能※



53mの施工実績写真

→ 中高層のビルの高さは31mと45mが多い

※施工現場によって補強なしでの高さは異なります

型わく支保工への転用可能



システム支保工(48.6タイプ)相当

→ 保有機材が少なくてすみます

施工性と剛性を両立した秘密は?



- ① ポケット方式
クサビのケースがしっかりとポケットに
- ② クサビの先端が面で支柱に接触&支柱を押し
- ③ 支柱にハイテン700鋼を使用
許容支持力が強く(13.0kN/本) かつ、軽量(11.8kg/本)

ファステックは、施工性と剛性を両立させた足場です。

施工性

〈布材〉 3ステップ施工

布材の3ステップ施工

① 布材のクサビ部分を支柱ポケットに合わせて置く



② 右止め



③ 左止め



組立後の一部解体も自由自在



→ 荷受台設置、歩行用などに

ファステックは
組立時：上→下、解体時：下→上

- 前後への体重移動なし
- 高所での安心感が違くと職人さんに好評

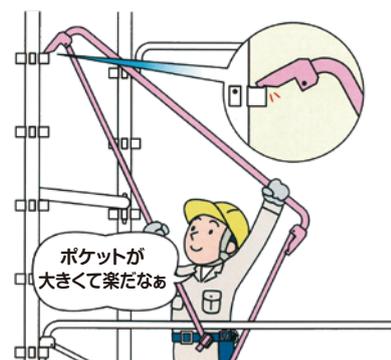
一番多い1829mmの布材でも3ステップ施工

〈先行手すり〉 自動セット方式

上部金具がストレートで長い



先行手すりの自動セット方式



① ブレースと手すりを持ち上げて、上部を支柱ポケットに引っ掛けます。



② もう一方の金具を支柱ポケットに取り付けます。

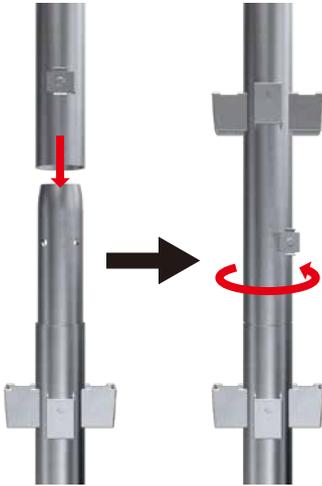
先行手すり方式で職人さんがお困りの点

- ① 高い所にある穴にセットしにくい
- ② 左をセットし、右をセットしようとしたら、左が外れることがある

→ ファステックなら、先行手すりの自動セット方式

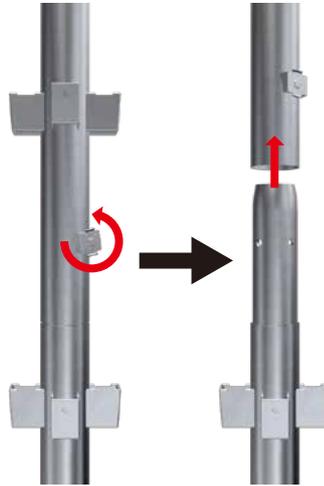
〈支柱〉 自動ロック方式

支柱の組立



挿入 → 回転で自動ロック

支柱の解体



金具をヒネる → 引き抜く

- 支柱は、差し込んで、回転させるだけ（自動ロック方式）
- ロック金具をひねれば、ロック解除。上に引けば、抜けます
- 円形ホゾに4つの穴
 - ➡ 支柱の向きを気にせず組立可能
 - ➡ 大組でのやり直し撲滅
- 支柱にハイテン700鋼を使用
 - ➡ 許容支持力が高く(13.0kN/本)、軽量(11.8kg/本)

ファステックは、施工性抜群の足場です。

ファステックの特長

足場は、高所で膨大な作業が必要

〈3,000㎡の物件の場合〉

部材	布材	先行手すり	支柱
施工に必要な部材数	約3,000本	約1,050本	約900本

ファステックなら

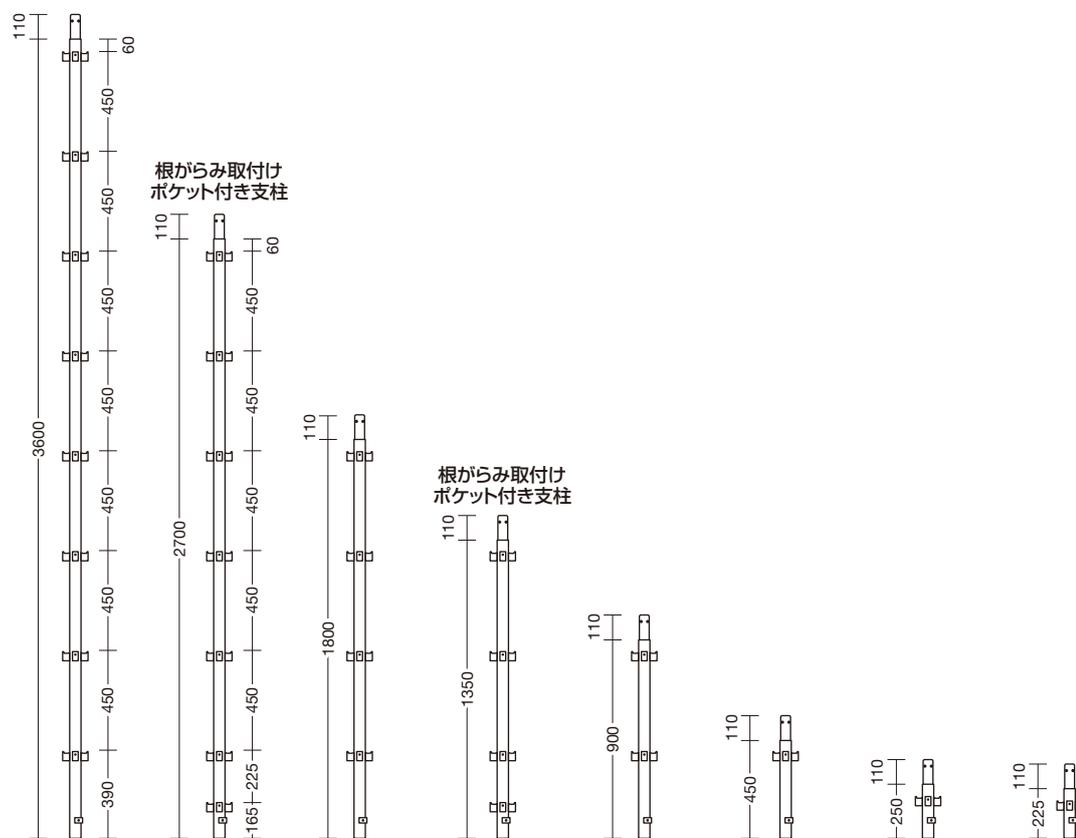
- ① 布材の3ステップ施工
- ② 機材の左右/前後/向きのチェックも不要
- ③ 余分な単管補強/強化方づえも不要
- ④ 支柱も軽量
- ⑤ ユレも少ない

高所で作業する職人さんのストレスが少ない足場です。

ファステックの部材

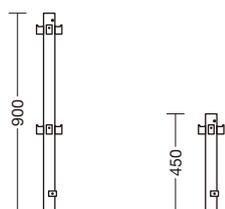
床付布枠等は従来品が使用可能です。

I 支柱



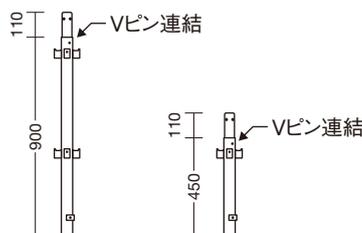
品番	JFT-36	JFT-27	JFT-18	JFT-13.5	JFT-09	JFT-4.5	JFT-2.5	JFT-2.25
重量(kg)	11.8	9.3	6.1	5.0	3.3	1.9	1.4	1.3
L:長さ(mm)	3600	2700	1800	1350	900	450	250	225
パイプ外径(mm)	φ48.6							

I ほぞ無しタイプ(ほぞ別販売できます)



品番	JFT-09HN	JFT-4.5HN
重量(kg)	2.8	1.4
L:長さ(mm)	900	450
パイプ外径(mm)	φ48.6	

I ほぞ脱着式タイプ

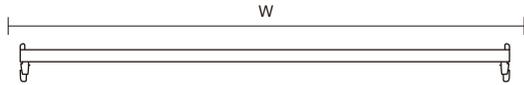


品番	JFT-09HV	JFT-4.5HV
重量(kg)	3.3	1.9
L:長さ(mm)	900	450
パイプ外径(mm)	φ48.6	

I Vピン

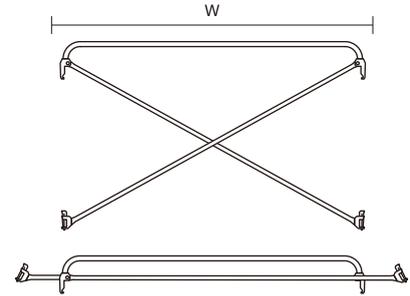


■ 布材



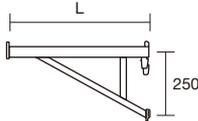
品番	JFN-183	JFN-153	JFN-123	JFN-093	JFN-063	JFN-043	JFN-03	JFN-02
重量(kg)	5.0	4.3	3.5	2.7	2.0	1.4	1.2	1.0
W: 使用長(mm)	1829	1524	1219	914	610	410	305	200
パイプ外径(mm)	φ42.7							

■ 先行手すり付きブレース



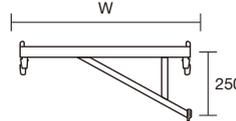
品番	JFX-183N	JFX-153N	JFX-123N	JFX-093N	JFX-063N
重量(kg)	6.8	5.9	5.1	4.3	3.6
W: 使用長(mm)	1829	1524	1219	914	610
パイプ外径(mm)	手すりパイプφ27.2 ブレースφ21.7				

■ ブラケット(片持ちタイプ)



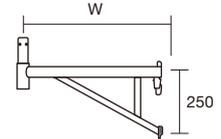
品番	JBK-75	JBK-50	JBK-35
重量(kg)	3.4	2.5	1.9
L: 長さ(mm)	838	538	324
パイプ外径(mm)	φ42.7		

■ 両端くさび付ブラケット



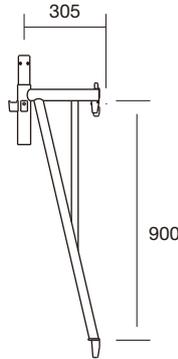
品番	JBKN-063	JBKN-04
重量(kg)	2.8	2.1
W: 使用長(mm)	610	400
パイプ外径(mm)	φ42.7	

■ ピンブラケット



品番	JBKP-063	JBKP-04
重量(kg)	3.3	2.6
W: 使用長(mm)	610	400
パイプ外径(mm)	φ42.7	

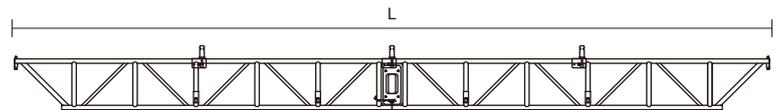
■ 張出ブラケット(拡幅用)



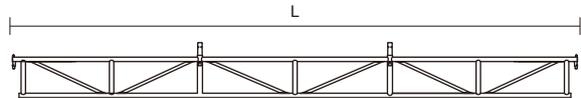
品番	JHBK-3
重量(kg)	4.4
W: 使用長(mm)	305
パイプ外径(mm)	φ42.7

■ 梁 枠

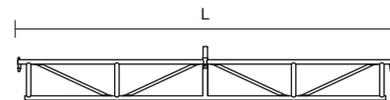
4スパン用



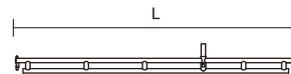
3スパン用



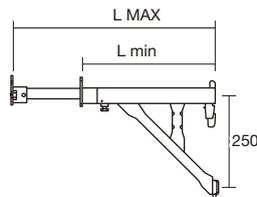
2スパン用



1.5スパン用



■ 伸縮ブラケット

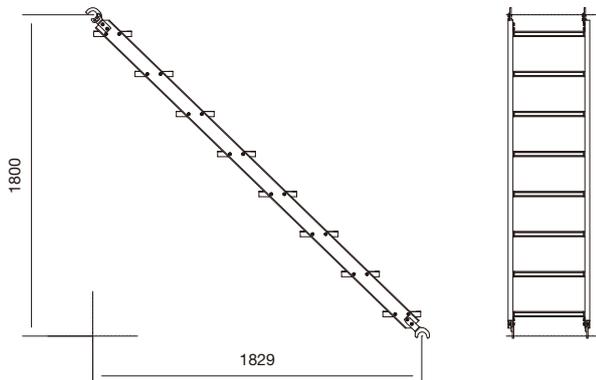


品番	JSBK-7510	JSBK-5075	JSBK-3550
重量(kg)	5.1	3.7	2.6
L: 長さ(mm)最大	1070	804	544
L: 長さ(mm)最小	838	538	354
パイプ外径(mm)	φ42.7		
パイプ内管外径(mm)	φ36.4		

品番	JHL-4	JHL-3	JHL-2	JHL-1.5
重量(kg)	70.0	35.5	23.9	15.0
パイプ外径(mm)	上弦材、下弦材共φ42.7			

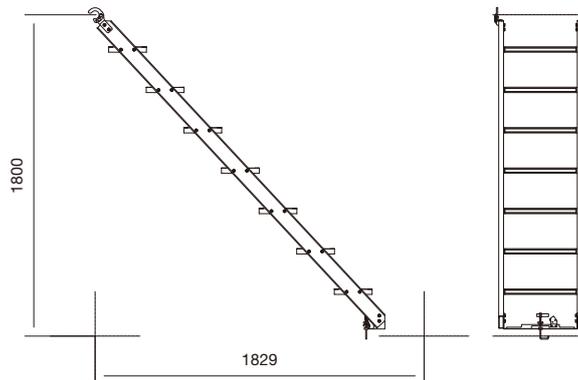
ファステックの部材

階段枠



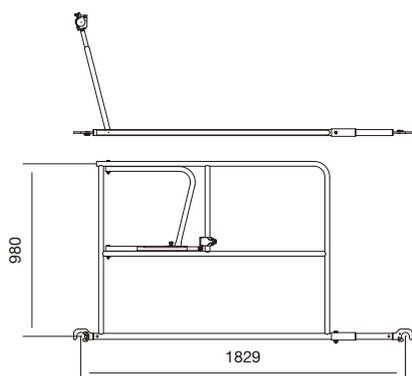
規格	STAF-1883
適用	くさび緊結式足場
重量	13.6kg
認定	(一社)仮設工業会 認定合格品

階段枠 (J-Sフラット用)



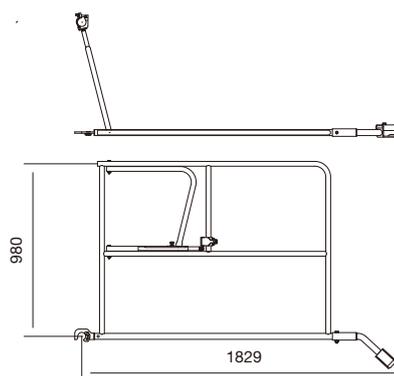
規格	STAF-1816F
適用	くさび緊結式足場
重量	13.0kg
認定	(一社)仮設工業会 単品仮設機材等承認品

階段開口部用手すり枠



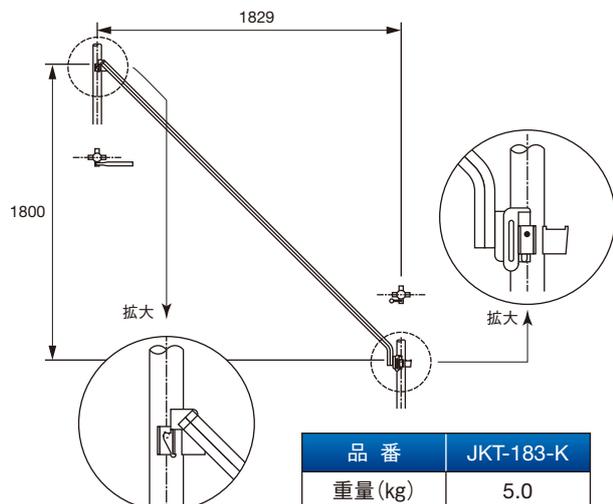
品名	階段開口部用手すり枠(一般用)	
規格	JSFC-1013	JSFC-1013M(メーター)
重量	12.2kg	12.1kg

階段開口部用手すり枠 (J-Sフラット用)



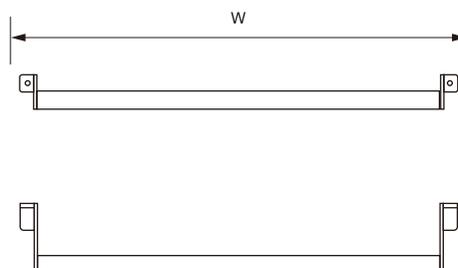
品名	階段開口部用手すり枠(床置き式階段用)	
規格	JSFP-1013	JSFP-1013M(メーター)
重量	13.0kg	12.9kg

階段手すり



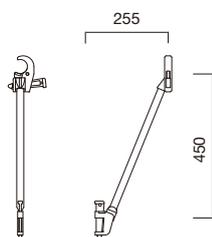
品番	JKT-183-K
重量(kg)	5.0

階段受け



品番	JNU-063	JNU-093	JNU-123
重量(kg)	2.6	3.6	4.0
W: 使用長(mm)	610	914	1219

強化方杖

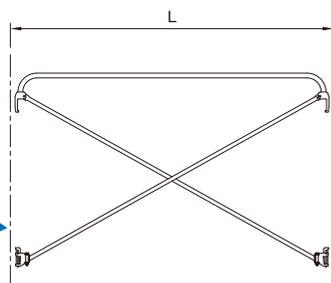
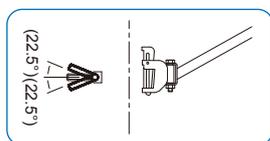


品番	JFS-25S
重量(kg)	1.4



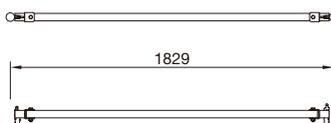
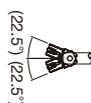
円形用部材

●円形用先行手すり付きブレース



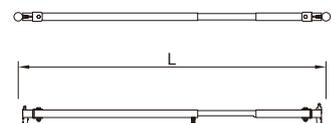
品番	JXX-183
L:寸法(mm)	1829
重量(kg)	7.4

●円形用布材



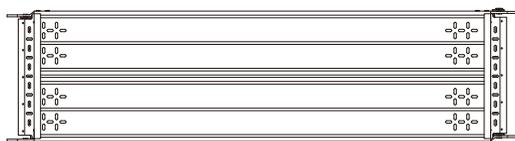
品番	JFN-183F
L:寸法(mm)	1829
重量(kg)	5.2

●円形用伸縮布材



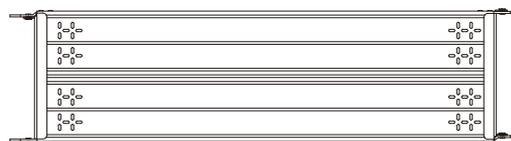
品番	JFN-1714	JFN-1410
L:寸法(mm)	1741~1411	1416~1086
重量(kg)	6.9	6.2

J-Sフラット (フルフラット型床付布枠)



規格	寸法(W×L)	質量(kg)
KTF-5183	490×1829	15.1
KTF-5153	490×1524	13.2
KTF-5123	490×1219	10.8
KTF-5093	490× 914	8.9
KTF-5063	490× 610	6.5
KTF-2183	240×1829	8.4
KTF-2153	240×1524	7.4
KTF-2123	240×1219	6.2
KTF-2093	240× 914	5.3
KTF-2063	240× 610	4.1

床付布枠

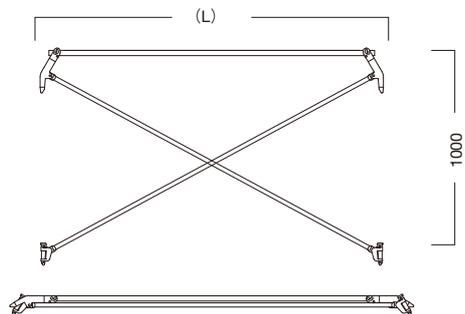


規格	寸法(W×L)	質量(kg)
LPS-5183	500×1829	14.3
LPS-5153	500×1524	11.7
LPS-5123	500×1219	9.8
LPS-5093	500× 914	7.5
LPS-5063	500× 610	5.5
LPS-2183	240×1829	8.0
LPS-2153	240×1524	6.7
LPS-2123	240×1219	5.7
LPS-2093	240× 914	4.6
LPS-2063	240× 610	3.5

※ファステック用幅木もラインアップ御座います。営業担当にご確認ください。

その他取扱商品

コンパクト先行手すり付きブレース



規格	L寸法(mm)	重量(kg)
FXC-18	1829	6.5
FXC-15	1524	5.8
FXC-12	1219	5.0
FXC-09	914	4.3
FXC-06	610	3.6

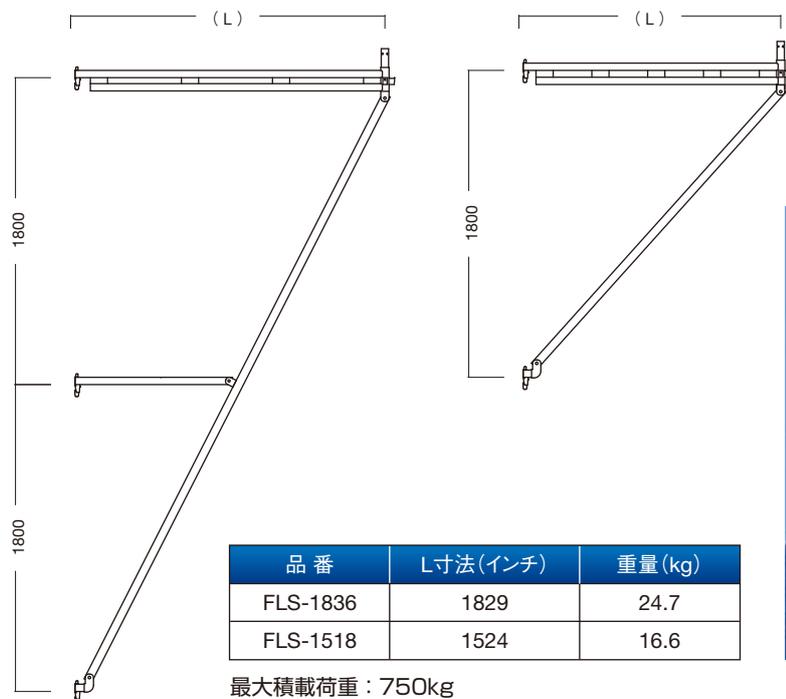


手すりとブレースを同じ長さにするにより、3本が隙間なく一体化

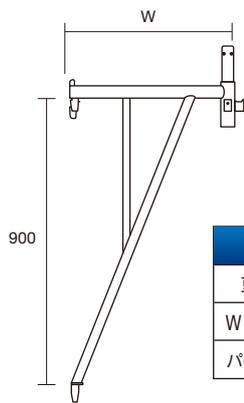


ハイテン材を採用することにより薄肉化が可能となり、軽量化が実現、梱包性も向上

荷受ステージ



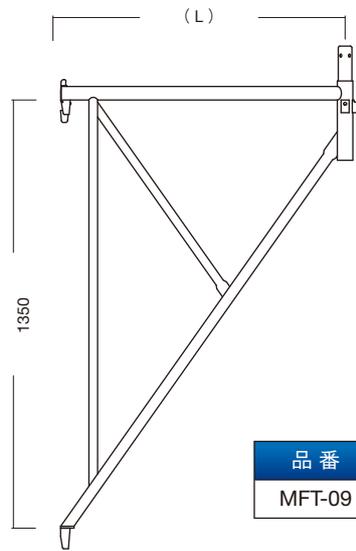
張出ブラケット



品番	JHBK-6
重量(kg)	5.2
W:使用長(mm)	610
パイプ外径(mm)	φ42.7

(注) 拡幅用にはご使用いただけません。

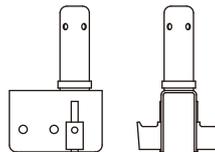
持送り支柱



品番	L寸法(mm)	重量(kg)
MFT-09	914	8.5

U字ベース金具

(梁枠4スパン：梁上ベース金具と兼用)



品番	重量(kg)
HL-UK	1.4

シート朝顔ハピネス【仮設工業会承認品】



ファステックを用いた本足場の使用基準

1 許容支持力等

【1】下記の許容支持力以下の範囲で使用すること。

使用形状	許容支持力
	<p>〈片側先行手すり付き〉 ブレース片側布材 支柱1本当たり P=13.0(kN)以下 1.33(t)</p> <p>〈両面先行手すり付き〉 ブレース P=12.0(kN)以下 1.22(t)</p>
	<p>〈梁枠上の支柱1本当たり〉 P=12.0(kN)以下 1.22(t)</p> <p>梁枠両端1スパン及び上方3層は、両面先行手すり付きブレースでの設置とする。</p>
	<p>〈梁枠上の支柱1本当たり〉 P=12.0(kN)以下 1.22(t)</p> <p>梁枠両端1スパン及び上方3層は、両面先行手すり付きブレースでの設置とする。</p>
	<p>〈支柱1本当たり〉 P=10.0(kN)以下 1.02(t)</p>
<p>両端くさび付ブacket ピンブacket</p>	<p>ブacket1枚当たり P=2.45(kN)以下 0.25(t)</p>
<p>先行手すり付きブレースの許容水平抵抗力</p>	<p>3.00(kN)以下 0.3(t)</p>

【2】積載荷重

①足場の最大積載荷重は、次表に示された値以下、かつ、同時積載は2層までとすること。

1層1スパンあたり	
同一層連続スパン載荷	250kg
同一層連続スパン以外の載荷	400kg

②作業床には上表の値にかかわらず、床付き布わくの許容積載荷重を超えて積載しない。

③梁枠で構成された開口部上方の足場の全積載荷重は800kg以下とすること。

【3】使用基準

- 部材の一時的取り外し
作業のためやむを得ず一部の部材を一時的に取り外すときは、取外した状態における足場の強度が著しく低下しないことを事前に確認するとともに、当該作業が終了した後は、直ちに原状に復すること。
- 先行手すり付きブレース
先行手すり付きブレースの使用は次によること。
 - 足場の組立て及び解体時において、最上段に設置された先行手すり付きブレースは、荷取り作業等においても取り外さない。
 - 足場の組立て又は解体作業が行われている足場最上層に置いては、先行手すり付きブレースに安全帯を取付けて作業する。
 - 安全帯取付け設備として使用する場合は以下による。
 - 安全帯のフックは、先行手すり付きブレースの手すりに掛け、1枠に1人の使用とする。
 - 作業床から地面又は衝突のおそれのある機械設備等までの垂直距離が2層以上で使用する。
- 表示
足場には、見やすいところに最大積載荷重を表示すること。
- 点検
足場は、労働安全衛生規則第567条及び655条に従って、各々の立場で適正な時期・内容で点検を行うこと。

ファステックを用いた本足場の組立基準

1. 足場の脚部

設計計画図に基づき、敷板の上にジャッキベースを所定の位置に設置し釘などで固定する。

注1) 基礎の支持力が十分であることを確認すること。

2. 支柱根がらみの取り付け

①最下層の支柱、根がらみ用ソケットのあるJFT-27、JFT-13.5を使用する。

設置場所に傾斜がある場合はJFT-2.5、JFT-4.5などの支柱で高さ調節する。

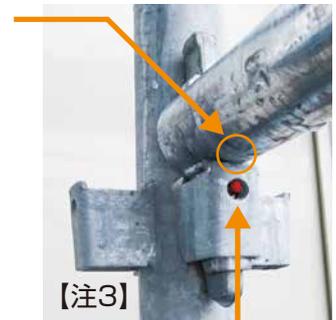
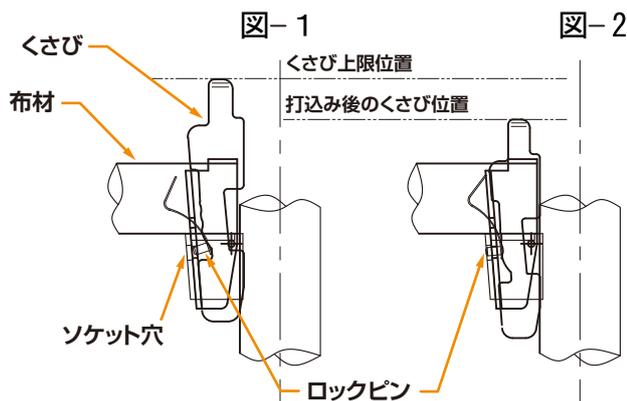
(支柱が倒れないように注意すること)

②最下段のソケットに根がらみ(布材)をセットする。

注2) 布材をセットする時には、図-1の通りくさびが上限にあり、ロックピンが引っ込んでいるかを確認すること。ロックピンが突き出していると布材が浮き、その状態でくさびを打ち込むとロックピンが損傷する恐れがある。

注3) 布材のパイプが支柱のソケット部に接触しているかを確認すること。

注4) 図-2の通り、くさびを打ち込むと、ロックピンが突き出しソケットの穴にロックピンが貫通する。ソケットの穴よりロックピンが貫通するまで打ち込むこと。

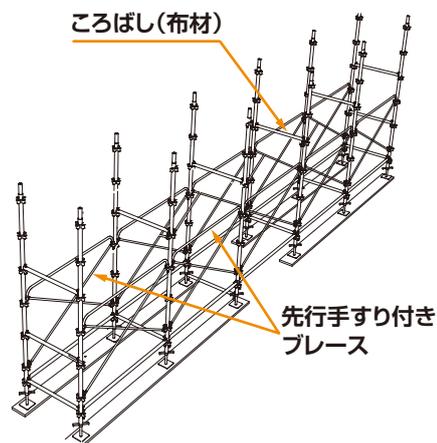


ロックピンがソケット穴から貫通しているかを確認すること。
➡ 貫通しないと抜け止め機能が働かない。

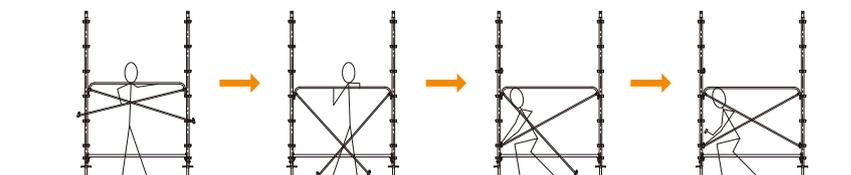
3. ころばし(布材)の取り付け

床用に足場の幅方向に、ころばし(布材)を支柱の5段目のソケットに取り付ける。

4. 1層目先行手すり付きブレースの取り付け



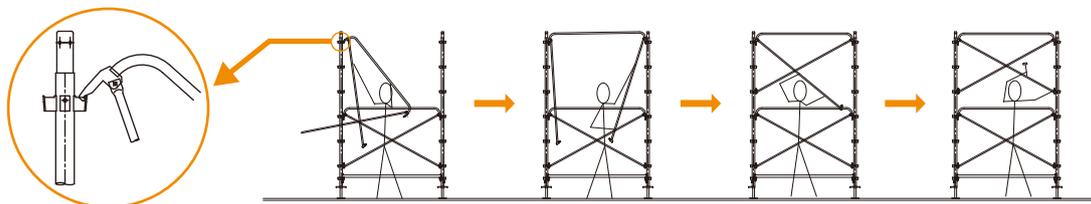
- ①先行手すり付きブレースを折り畳んだ状態で持ち上げ、4段目のソケット両側に上部差込金具を装入する。
- ②2段下がったソケットに下部取り付け金具を横方向より装入し、くさびをハンマーにて緊結する。
(この時、くさびはソケットに干渉しないように持ち上げながら装入すること)
- ③足場の前踏み/後踏み側の両面に設置する。
(前踏み側は、布材設置でも可)



ファステックを用いた本足場の組立基準

5. 2層目先行手すり付きブレースの取り付け

- ①下図のとおり支柱の最上段のソケットに先行手すりの上部差込金具のフックを掛ける。
- ②反対側のソケットに先行手すり付きブレースの上部差込金具を差し込むと自動的に①側の差込金具はソケットの奥に差し込まれる。



6. 床付き布わくの取り付け

二層目に床付き布わくを設置する。

7. ①階段受け、②階段枠、③階段手すりの設置

- ①最下段のソケットに階段受けを取り付ける。②階段枠を階段受けに掛け設置する。
 - ③階段手すりを取り付ける。
- 注5) 階段枠は最初に下部つかみ金具をセットしてから上部つかみ金具をセットすること。

8. 手すり(布材)の取り付け

前踏み側と妻側に手すり(布材)を取り付ける。

注6) 手すり設置時には、墜落制止用器具を先行手すりの手すり材に取り付けること。

注7) 前踏み側に先行手すり付きブレース設置も可能です。その場合、全面に設置すること。

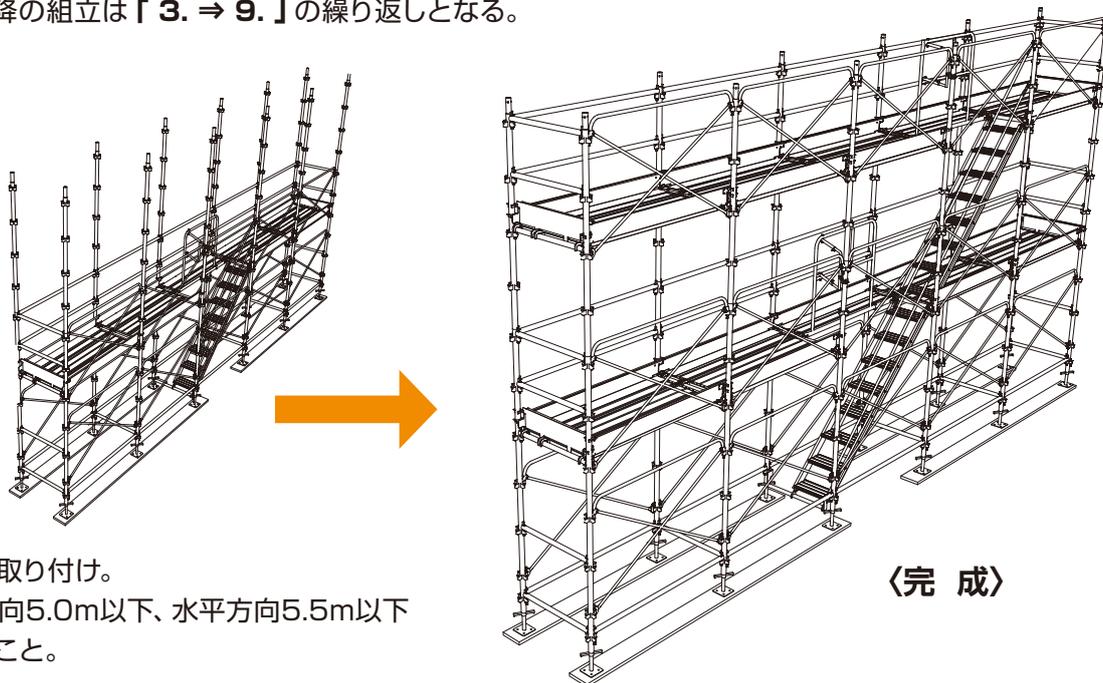
また、許容支持力が変わるため、使用基準の許容支持力内にて使用すること。

9. 階段開口部用手すり枠の設置

階段開口手すり枠を設置する。

10. 3層目以降の組立

- ①下段支柱(JFT-27)のホゾ部に上段支柱(JFT-36又はJFT-18)を差し込む。
- ②支柱を回転させ、ロック金具より「カチッ」と音がし、回転しなくなればロックが完了する。
- ③3層目以降の組立は「3. → 9.」の繰り返しとなる。



11. その他

壁つなぎの取り付け。

注) 垂直方向5.0m以下、水平方向5.5m以下とすること。

特徴

1. 型わく支保工と足場が兼用可能なファステック

ファステックは、足場に加え型わく支保工としてもその機能を活かすことができます。型わく支保工施工時の外部足場と支柱、布材、先行手すり が兼用出来る為、2種類保有する必要がありません。

2. 高い許容支持力

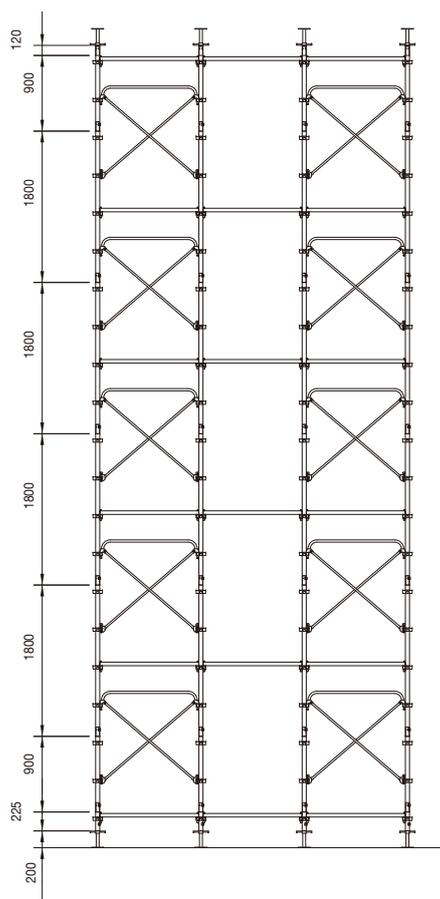
Φ48.6のシステム支保工材と同等の許容支持力があります。

[許容支持力 33.2kN/1支柱]

3. 手すり先行工法が可能な支保工

先行手すり工法での型わく支保工の組立が可能です。

※許容支持力・使用基準・組立基準等は別途技術資料をご確認ください。

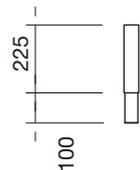


型わく支保工用部材

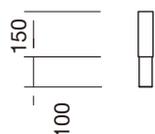
支保工用カラー材

支柱ジョイント取外しタイプ

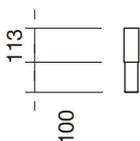
※ジョイントを取外した支柱JFT-09HN、JFT-4.5HNに御使用ください。



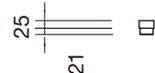
FSH-AT-225



FSH-AT-150



FSH-AT-113



FSH-AT-025

品名	支柱ジョイント取外しタイプ			
規格	FSH-AT-225	FSH-AT-150	FSH-AT-113	FSH-AT-25
長さ L(mm)	225	150	113	25
重量(kg)	1.0	0.8	0.7	0.2

カラー材タイプ

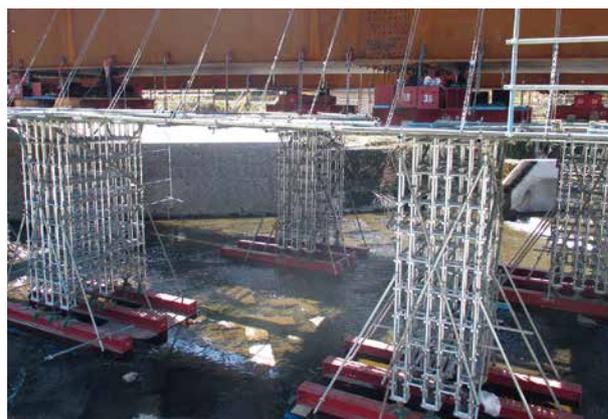


SH-225



SH-120

品名	カラー材タイプ	
規格	SH-225	SH-120
長さ L(mm)	225	120
重量(kg)	0.5	0.3



型わく支保工 使用基準等

許容支持力等

■ 支柱の許容支持力

支 柱	許容支持力 [kN/1支柱]
支柱間隔 1829, 1524, 1219, 914, 610mm 共通	33.2

■ 先行手すり付きブレースの許容水平抵抗力

先行手すり付きブレース	許容水平抵抗力 [kN/1枚]
支柱間隔 1829, 1524, 1219, 914, 610mm 共通	3.4

■ 使用基準

- (1) コンクリート打設前に、布材及び先行手すり付きブレースのくさびが確実に打ち込まれているか確認すること。
- (2) 型わく支保工上に荷重が掛かった後は、部材の一時的取り外しは原則として行わないこと。
但し、やむを得ない場合には型わく支保工の管理責任者と協議し、必要な補強を行った後に部材の取り外しを行うこと。
- (3) 型わく支保工の使用中は定期的に点検を行い、異常音、型わく支保工の沈下、水平変位等の異常を認めた場合には、直ちに作業員を退避させ、支保工の安全を確認したのちに（安全対策を行い）修復すること。
- (4) 強風、地震の後には点検を行い、異常を認めた場合には、直ちに作業員を退避させ、支保工の安全を確認したのちに（安全対策を行い）修復すること。

型わく支保工 組立基準

1. 全体

①支保工の組立においては、指定の部材を使用し、その使用部材を指定された方法で結合すること。

2. 基礎

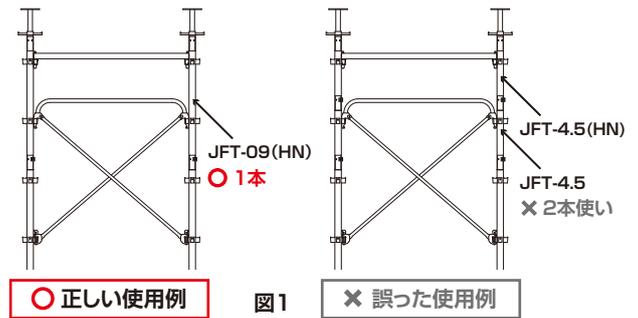
- ①支保工の基礎は十分な支持力を有するものとする。
- ②地盤上の状況に応じて敷板または敷盤等を用いること。

3. 支保工の脚部

- ①支柱間隔は、610～1829mmとすること。
- ②支柱の最下端にはジャッキ型ベース金具(仮設工業会認定品)を使用し、各支柱のレベルを揃えること。
- ③組立後及び使用前にジャッキ型ベース金具のハンドルに遊びが無いことを確認すること。
- ④ジャッキ型ベース金具の最大使用長は350mmまでとすること。
- ⑤最下端の支柱の下部には根がらみを直角2方向それぞれに設けること。

4. 支柱の組立て

- ①支柱の継ぎ足しは、ほぞに支柱を差し込み、ジョイント部はロック金具により抜け止めを確実にすること。
- ②最下端の支柱には原則としてベース支柱(JFT-2.25、JFT-2.5、JFT-09、JFT-13.5、JFT-27)を使用すること。
- ③大引受けジャッキを装入する場合、ほぞに荷重をかけないようにする為、最上端の支柱には原則として、ほぞ無しタイプ支柱(JFT-09HN、JFT-4.5HN)を使用すること。ほぞ有りタイプ支柱を使用する場合は、支保工カラー材を使用すること。
- ④最上端の支柱には、JFT-4.5及びJFT-4.5HNの2本使いはしないこと。(図1)



5. 布材(水平材)

- ①布材(水平材)は支柱のソケットに正しく差し込み、ロックピンが出るまで確実にくさびを打ち込むこと。
- ②布材(水平材)は以下の通り設置すること。
 - a. 最下段並びに最上段には直角2方向に布材(水平材)を設けること。
ただし、最上段に先行手すり付きブレースを取り付ける場合には、最上段の布材(水平材)を省いてよいものとする。
 - b. 布材(水平材)は垂直高さ1800mm以下毎に設けること。

6. 先行手すり付きブレース

- ①先行手すり付きブレースは水平材両端のフックを支柱のソケットに差し込み、ブレース材の下部ロック金具を対角方向の支柱ソケットにセットし、くさびを確実に打ち込むこと。
- ②先行手すり付きブレースは四角塔の全層全構面に垂直高さ1800mm以下毎に設けること。

7. 大引受ジャッキ

- ①支柱の上端には、高さ調節と解体時の応力解放のため大引受ジャッキを設けること。
- ②大引受ジャッキはジャッキ型ベース金具(仮設工業会認定品)と同等以上の性能を有するものを使用し、使用高さは350mm以下とすること。
- ③組立後、大引受ジャッキのハンドルに遊びが無いことを確認すること。

8. 水平変位の拘束、転倒防止対策等

組立高さが支柱間隔(L)の5倍以下毎かつ上端付近に大つなぎ及び大筋かいまたは壁当て等を設け水平変位を拘束すること。

ただし、組立高さが支柱間隔の5倍以下の場合であっても、風荷重やその他の荷重条件により、型わく支保工が不安定となる恐れがある場合には、転倒防止対策等の措置を行うこと。

■ 施工例



JFE 機材フォーミング 株式会社

<https://www.jfe-kizai.co.jp/>



本 社	〒270-2214 千葉県松戸市松飛台478-2	TEL.047(387)0158	FAX.047(387)0159
名古屋営業所	〒450-6427 名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビルヂング)	TEL.052(533)2481	FAX.052(533)2482
大阪営業所	〒530-0003 大阪市北区堂島1-6-20(堂島アバンザ)	TEL.06(6342)0615	} FAX.06(6342)0616(共通)
出張所	〒730-0037 広島市中区中町7-23(住友生命広島平和大通り第2ビル)	TEL 082(542)3100	
九州営業所	〒812-0025 福岡市博多区店屋町1-35(博多三井ビルディング2号館)	TEL.092(263)6778	FAX.092(263)6738

〈各種カタログご請求の方は上記本社、各営業所にお問い合わせください。〉

代理店